



いこいの森

2020年

秋

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院だより 57号

『就任のご挨拶』

こくば ゆきひと
病院長 國場 幸均



令和2年4月1日から病院長に就任いたしました國場幸均です。よろしくお願い申し上げます。平成24年に西部病院消化器・一般外科へ赴任し、以降、診療・教育・研究ならびに当院の運営に携わってまいりました。

当院は昭和62年5月に「横浜21世紀プラン」の一環として、横浜市西部医療圏の旭区矢指町に開院して30年余を経ました。開院以来、横浜市地域中核病院、地域支援病院として地域の医療を担って歩んでまいりました。

現在、新型コロナウイルス感染症に対して国をあげて取り組んでいますが、当院も本年2月からクルーズ船ダイヤモンドプリンセス号への対応や帰国者・接触者外来など横浜市と連携して積極的に取り組んでまいりました。感染防止対策をとりつつ、従前と同じく多くの患者さまの診療を行いながら、新型コロナウイルスにも慎重に対応しておりました。しかしながら、4月下旬に当院で入院治療をされていた患者さまの院内感染が判明し、スタッフを

含む複数人への感染が広まる事態となりました。当院におかかりの患者さまやご家族、日頃より当院と緊密に連携していただいている医療機関の皆様には、多大なるご心配とご負担をおかけいたしました。改めてお詫び申し上げます。

その後、感染防止対策の見直しとその徹底、スタッフの再教育とともに、院内の清掃・消毒などの環境整備も行い、厳重な感染対策のもと診療を行っております。

こうした中であっても、多くの方々からの励ましのメールやお手紙、さらには医療材料や飲食物など多大なるご支援をいただきました。誰もがたくさんの制約を強いられる中、医療従事者への励ましは大変心強いものでありました。厚く御礼申し上げます。

引き続き、ご来院の皆様には、マスクの着用や検温、病院玄関での問診、手洗いの励行など感染防止対策へのご理解とご協力をお願いいたします。

私たちは、病院の理念「生命の尊厳を重んじ、常に病める人の声に耳を傾け、癒すこと」を実践するとともに、私たちが提供する医療によって一人でも多くの方が病から解放され日々の穏やかな生活を送っていただきたいと願っています。

大学病院として高度で専門的な医療を提供するだけでなく、いつも皆様の近くにいるかかりつけの先生方や医療機関との連携をはかり、そのネットワークによって皆様がこの地域で安心して生活できる医療体制をこれからも築いていきたいと考えております。

皆様に安心して受診していただくとともに、「この病院に来てよかった」と思ってもらえるよう努力してまいります。よろしくお願い申し上げます。

新型コロナウイルスの院内感染対策 ～感染制御室設置～

副院長 感染制御室室長 佐野文明



2020年4月に当院で発生した院内感染により、多くの患者様やご家族の皆様、近隣住民の皆様、医療関係の皆様、行政の皆様、病院関係の皆様などに多大なるご迷惑とご心配をおかけいたしましたして、誠に申し訳ございませんでした。心よりお詫び申し上げます。6月8日の院内感染終息宣言後は、院内感染を二度と発生させない万全の態勢で診療を再開しており、診療を行う上でこれまでと異なった様々な制約が発生しています。患者さまやご家族の皆様にはご不便をおかけしておりますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

新型コロナウイルスは、インフルエンザと同じように感染者の飛沫（ひまつ：くしゃみや咳で発生する小さな水滴）と一緒にウイルスが放出され、他人がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染します（飛沫感染）。また、感染者の飛沫や接触でウイルスが付着した物に他人が触るとウイルスが手に付着します。その手で口や鼻を触ると粘膜から感染します（接触感染）。ですから、マスク、手洗い、三密（密閉、密集、密着）を避けることが感染予防に重要です。ただ、新型コロナウイルスはインフルエンザよりも感染予防が難しい点があります。1つ目は、感染しても症状が出ない人が半分近くいるという点です。これらの人からも感染が起こることが報告されています。2つ目は、症状が出る前（約2日前）からウイルスは感染者の体内で増殖し他人に移す可能性があるという点です。インフルエンザでは、感染すると発熱などの症状は出やすく、他人への感染は症状出現後に起こるため新型コロナウイルスよりも感染対策がしやすいのです。このような理由から、連日ニュースでも流れていますように、感染対策を行っても多くの医療機関や施設でクラスターと呼ばれる集団感染が発生しています。

当院では、以前から院内感染対策として医療安全管理室の中に感染対策部門を設置し専従職員が対応してきました。定期的な委員会、研修会、感染制御チームの回診などを行なってきましたが、院内感染を防ぐことができませんでした。これを振り返り、さらに院内感染対策を強化するために5月15日に感染制御室を設置しました。感染制御室では、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、事務職など多職種で院内感染対策に当たります。現在行っている玄関での問診や検温、種々の設備改修、入院患者さま全員へのウイルス検査や胸部CTなどの検査、院内感染予防対策の立案と実施の確認、職員への院内感染予防教育など様々な業務を行っています。

感染制御室は、当院を受診して下さる患者さまに安心して安全な医療を受けていただくために活動していきますので、宜しくをお願いいたします。

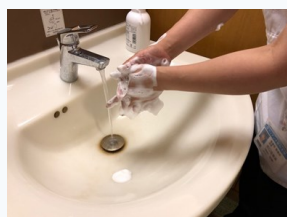


自分で行う感染対策 ～家庭内感染を予防しよう

副看護部長 感染管理認定看護師 三田 由美子

家庭内感染とは、同居している家族が感染症を発症し他の同居家族にうつしてしまうことを言います。これは、現在問題になっている新型コロナウイルス感染症だけに言えることではなく、季節性インフルエンザや感染性胃腸炎、流行性角結膜炎（はやり目）など、さまざまなウイルスや細菌による感染症があります。

感染対策の基本は手指衛生で、アルコール消毒剤による手指消毒や流水と石鹸による手洗いです。



また、咳エチケットといわれる、咳やくしゃみなど呼吸器の症状がある場合にはマスクの着用を推奨しています。マスクは、鼻が出ていることがないように正しく着用しましょう。



日常的に行う感染対策としては、手指衛生を行うこと、特に目や鼻、口などに触れる前後の手洗い、食事の前、外出からの帰宅時、排泄後など丁寧に手指衛生を実施する必要があります。外出中は、アルコール消毒剤や消毒シートなどを持参し、手指消毒ができるように準備するのも良いと思います。

マスクがない状態で咳やくしゃみをする場合には、ティッシュペーパーなどで口と鼻を覆いましょう。その後、ティッシュペーパーはすぐに廃棄し、丁寧な手洗いが必要になります。

厚生労働省では、「ご家族に新型コロナウイルス感染が疑われる場合、家庭内でご注意いただきたいこと～8つのポイント～」として、①部屋を分ける、②感染者のお世話は限られた人で行う、③マスクをつける、④こまめに手を洗う、⑤適切に換気をする、⑥手で触れる共有部分を消毒する、⑦汚れたリネンや衣類を洗濯する、⑧ごみは密閉して捨てる、とされています。新型コロナウイルス感染症だけでなく、様々な感染症に対して有効な方法であると考えられます。

同居家族の中で発熱や下痢、嘔吐などの感染症状がある場合は、健康な人との接触を避けるために可能であれば部屋をわける、共有するタオルなどを個人専用にする、食事の際には別室にする、大皿で取り分けるようなメニューにしないなどの注意が必要になります。

また、感染性胃腸炎（特にノロウイルス感染症）では、症状が軽快しても、排泄物の中に1か月ほどウイルスが排出されるといわれていますので、症状軽快後も基本的な手指衛生は必要になります。

感染症は、自分だけでなく周りの家族にも影響がある病気です。自分自身の健康管理に注意し、感染症に「かからない、うつさない、広げない」ことが重要です。

ご存じですか？

当院では、病院正面玄関等の出入り口に手指衛生のための消毒液を設置しています。みなさんは消毒液を効果的に使えていますか？

最近ではスーパーや飲食店などにも設置してある消毒液、ぜひ効果的な使用方法をマスターして感染予防に努めましょう！

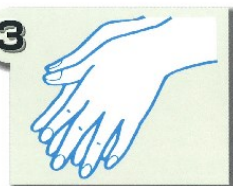
手指消毒の手順



1 消毒薬適量を手のひらに取り
ます。



2 初めに両手の指先に消毒薬を
すりこみます。



3 次に手のひらによくすりこみます。



4 手の甲にもすりこんでください。



5 指の間にもすりこみます。



6 親指にもすりこみます。



7 手首も忘れずすりこみます。
乾燥するまでよくすりこんで
ください。

病院に入る時・出る時は、手指消毒をお願いいたします。

聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院



お し ら せ



当院は原則として「**初診紹介制**」となっています。初めて受診されるときは、
地域医療機関（かかりつけ医等）からの「**紹介状**」をお持ちください。

初診時に予約制を実施している科もあります。詳しくは、ホームページまたは、
総合案内、地域医療連携係へご確認ください。

受付時間：平日9:00～16:00、土曜日9:00～11:30（休診日を除く）

電話番号：045-366-1111（代表）

